

NEXT21自然のたより

2014年5月

No. 14
2014年5月25日
(再開第2号)

NEXT21のツツジ特集

NEXT21 の3月下旬～5月、次々にツツジの花が咲き、楽しませてくれます。ツツジは園芸種が多く、わからない品種が多いのですが、わかる範囲で紹介します。



ヒラドツツジ 140426 駐車場入口

1. ヒラドツツジ(平戸躑躅)



NEXT21 に植栽されたツツジで一番華やかなのはヒラドツツジです。ヒラドツツジは長崎県平戸地方で作られた大型ツツジで、モチツツジなど何種かのツツジが関与して改善が加えられ、現在のような多種多様な品種群になったとのこと。

赤・ピンク・紫・白などさまざまな色の直径6～7cm の大きな花が咲き、サクラ前線が通り過ぎたあと花の主役となっています。

NEXT21 ではエコロジカルガーデンの駐車場入口などに植栽されており、4月後半に満開であった。

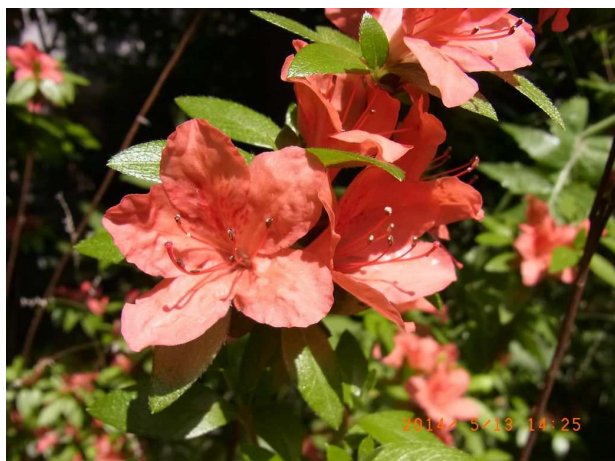


2. ヒカゲツツジ(日陰躑躅)

ヒカゲツツジはヒラドツツジとは一転し淡黄色の地味な花。元々深山の溪流にひっそり咲くツツジとのことであるが、私は京都植物園で早咲き種として3月下旬に観察してきました。

NEXT21 では、エコロジカルガーデンの水流沿いで、4月上旬に咲いているが、花の直径が3cm ほどで、色あいも「しとやか」なので、気づかないほどである。

3. ヤマツツジ(山躑躅)



晩春～初夏に咲く、日本の山野に一番多いツツジ。

直径3～4cm ヤマツツジの花冠(花びら)は、毒がないので蜜を吸ったり、花冠を食べたり、戦後の食糧不足時代に、ひもじい思いの子供たちの胃袋を満足させた自然界にある、おやつの一つでした。

ヤマツツジの酸っぱい味覚が、どこかに記憶として残っているらしく、山地でヤマツツジを見ると、試食していることがあります。

4. ミツバツツジ(三葉躑躅)

春ソメイヨシノやヤマザクラの咲く頃、里山の林床にミツバツツジ(地域種があり、関西ではコバノミツバツツジ)の赤紫色の花が咲きはじめ、サクラがなくても「春が来た」という感じがします。

最近、「**里山が荒れている**」という言葉が聞かれたことがあると思いますが、昭和 40 年代からの燃料革命で木々の薪炭利用がなくなり、里山を利用する人が無くなり放置状態になりました。そこでは木々が縦横に繁茂し林全体が暗くなり、林床に日が射さなくなったため、ミツバツツジの花が咲かなくなっていました。

ここ20年ほど「**里山管理**」が叫ばれるようになり、ボランティアなどで里山の間伐作業を行うようになった所、管理を始めて数年でミツバツツジの花が咲き始めたという事例を、身近に見ています。

ミツバツツジは葉の出る前に花が咲くため、ミツバツツジが咲き始めると、その周囲がパッと明るくなります。

里山で見るミツバツツジ(コバノミツバツツジ)は赤紫色ですが、NEXT21 エコロジカルガーデンに植



栽されているのは園芸品種でしょうか、赤紫色と並んで白花もあり、4月初旬に紅白のミツバツツジの花が見ることができました。

5. シャクナゲ(石楠花)

シャクナゲは常緑で革質(革のように硬い)の細長い葉が枝先に集まるツツジで、その葉の中心に直径5cm程の漏斗型の大きな花が集まって咲いている。シャクナゲはやや高地に咲き、高野山など神社仏閣に多いので、公園などに植栽されていると、他のツツジを見るよりは畏敬の念を込め「シャクナゲがあった」と言われることが多い。NEXT21 では1F 東南端のクヌギの林床などにあり、4月中旬頃鮮やかな花を咲かせています。



6. レンゲツツジ(蓮華躑躅)

シャクナゲのすぐ近くにレンゲツツジが植栽され、4月下旬に朱色で直径5~6cmの大きな花が咲いていました。子供の頃、ヤマツツジは食べたが、大きな花のレンゲツツジは毒があるので食べてはいけなと言われ、食べずにいました。

今回調べてみると、葉にも花にも毒性があり、放牧地では家畜が食べないので、レンゲツツジだけが残るとのこと、子供の頃の疑問が解けました。

7. カルミア(アメリカシャクナゲ)

エコロジカルガーデンの水流の近くにつぼみは星型、花は五角形の白い愛らしい花が咲いていました。カルミヤ(orアメリカシャクナゲ)と呼ばれている北アメリカ原産ツツジ科の花とわかりました。

